

取組のポイント

- ①将来的に安定した茶生産を実現するため、西原地区全体の整備構想を策定。1地区あたりの整備面積は約5ha程度にすることで工事完了までの期間を短縮。
- ②畝方向を南北に統一。幹線農道と畝を平行に、支線農道は東西方向に配置することで乗用作業機の導入を可能に。
- ③狭小で分散していた茶園を担い手農家3戸に集積して50m区画に整備したことで81筆を27筆に集約化。



組合の中心メンバー

取組内容

①事業の推進

本地域は狭小な茶園が多く担い手不足が課題。農業委員会の若手農業者と語る会をきっかけに「西原地区基盤整備勉強会」を立ち上げ。将来にわたり安定的な茶生産を行うため、当地区全体の基盤整備構想を作成。

一方で、1地区あたりの整備範囲を約5ha程度とコンパクトにすることで農家調整を円滑化し、事業計画作成から事業完了までの期間短縮が可能となった。静岡県が取り組む「茶産地構造改革基盤整備プロジェクト」(47地区360ha)の先駆けとして視察を積極的に受け入れる等、県のモデル地区に。

組合の経営概要

代 表：井村典生
設 立 年：平成27年
組 合 員：30人
主要作物：茶



畝方向が統一された茶園

②農作業の機械化

改植する畝は、作業性と日照を考慮して南北方向に統一するとともに、高低差をなくした50m区画のほ場に整備。さらに、幹線農道は畝と平行に、支線農道は東西方向に配置することで、乗用作業機械の導入が可能となり、従前より作業効率は3～5倍にアップ。

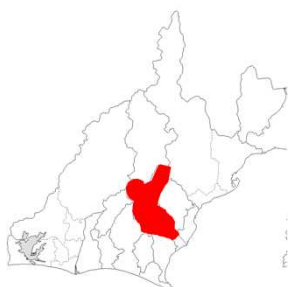
これまで1品種(やぶきた)のみを栽培していたことから、摘採時期が集中していたが、品種ごとに栽培エリアをまとめて複数品種を導入することで作業を分散化しており、紅茶等の新たな香りのお茶の生産にも取り組む。



和紅茶ももか

③農地の集積・集約化

茶園は狭小で畝も区画もバラバラで管理が難しくなっていたが、81筆あった茶園を27筆に集約。将来を見通し、若い担い手農家3戸に地区内4.9haのうち3.7haを集積。機械化が進み作業効率がアップしたことで、更なる経営面積の拡大が可能に。



事業概要

地 区 名：西原地区
事 業 種：県営農地耕作条件改善事業
関係市町：静岡県島田市
受益面積：4.9ha
工 期：平成27年度～29年度
事業目的：区画整理
主要工事：暗渠排水、土層改良
農業作業道

	事業前	事業後
機械活用面積(ha)	1.7	4.9
筆数	81	27